

## 仲間と学ぶ宿泊体験教室推進校 土浦第一中学校

### 1 取組の概要と成果等

#### (1) 取組の概要 第1学年による4泊5日の宿泊体験学習

飯ごう炊飯やオリエンテーリング、アイススケート、創作活動などの体験を小集団を通して活動することによって、生徒相互及び生徒と教職員の交流を深めた。

また、家庭を5日間離れて生活することにより、親や家庭の大切さを再認識する機会となるよう実施した。

#### (2) 特に工夫や配慮をした事項

##### 飯ごう炊飯・オリエンテーリング

生徒同士がお互いにふれあうことができるように4～8人の男女混合のグループで活動させた。包丁を使って上手に野菜を切っている生徒をはじめとして、薪ばかりでなく落ち葉を拾ってきて火をおこす生徒。地図を見ながら、シルバコンパスを上手に使い、ポイントを探し当てる生徒。それぞれの特技を生かし、お互いを認め合いながら協力して行動できていた。

##### 絵手紙

木の葉をはじめ、いろいろな植物を顔彩を使って丁寧に描いたり、宿泊所での生活を描いたりした。また、家族に対して日頃言えない感謝の気持ちを短い言葉で書き添えることにより、一人一人が家族を思いながら味わいのある作品を完成させた。2日目の夜に行ったが、手紙は3日目の朝に投函し、4日目には家族の元に届くようにした。

#### ○ アイススケート

スケート靴を履いて氷の上に乗るのはほとんどの生徒が初めてである実態をふまえ、スケート体験を取り入れた。諦めることなく最後まで向上心を持って活動することをねらいとした。時間が経つと、支え無しで氷の上に立つことができたり、歩いたりすることができるようになってくる生徒がほとんどであった。

#### (3) 成果等（児童生徒の変容（データや具体例）、教員や保護者、宿泊先の感想等。

長期にわたる宿泊を伴う一定期間まとまった共同生活等の体験活動を行うことの成果は必ず記載すること。）

宿泊体験学習のスローガンを「団結！協力！友情！最高のメンバーと最高の思い出を」とし、クラスや学年のまとまりを強め、友だちの新たな良い点を発見することに重点をおいて活動を計画した。できるだけ少人数の班で活動させた結果、さまざまな活動場面で、生徒同士の交流が深まり、友だちの意外な一面にふれることができた。

事実、生徒たちの感想には、159人中71人の生徒（45%）が「普段あまり話さない友だちと会話することができた」と答えており、133人の生徒（84%）が「友だち同士の信頼関係を深めることができた」と答えている。保護者でのアンケートでも、「宿泊所での生活が楽しかったようである」と、130人のうち108人の保護者（83%）が答えており、「友だちとふれあえることができたようである」と、92人の保護者（71%）が答えている。

### 2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

#### (1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

学校支援委員会を開催し、実施内容の検討と協力体制の確認を行った。また、冬季休業中を利用して、宿泊施設を担当学年職員が全員で訪問し、施設設備の確認や担当者との打合せを綿密に行い、計画をより細かに立てることができた。

(2) 成果等

他学年教職員の協力を得られたことで、充実した内容で実施することができた。  
また、怪我や病気などの配慮すべき生徒の申し送りのため、養護教諭が作成した個票を活用することで指導員や看護師との共通理解をスムーズに行うことができた。

3 今後の課題と改善点

1月に実施したため、風邪やインフルエンザの流行が考えられること、荷物が多くなることなどの理由から、もっと暖かい時期での実施を要望する保護者の数が多かった。

指導員や看護師の十分な確保と連携がさらにできるよう努める。